

歯周にやさしい修復物

(歯周環境を知ったうえで修復物を作ろう)

私たち歯科技工士の製作する修復物は、対合歯や支台歯と接するため、咬合や適合の勉強が必要です。しかし、多くの修復物が歯肉と接するにもかかわらず、歯科技工士の視点からはどのように歯肉と接すると良いかを教示する成書は少ないと思います。

とはいえ、歯科技工士が歯周を考えずに修復物を作って良いわけではありません。天然歯そっくりの形態を与え、隣在歯と見た目に同じ色再現ができたとしても、歯肉の炎症がおさまらない修復物では、生体が受け入れたとは言えません。

この数年、生物学的幅径のような歯肉の状態での修復物を製作し、装着するケースが誌上をにぎわしています。確かに、生物学的幅径を侵害しなければ装着した修復物は歯肉退縮も少なく安定した予後が獲得できることはいうまでもありません。そのために、歯周外科やプロビジョナルレストレーションなどを駆使して、健康な生物学的幅径の状態を作り上げた後に修復をすることが王道となっています。しかし、実際の技工に発注されるケースは、生物学的幅径の状態とは異なるってることが多くありませんか？。

捻転歯や矯正治療を行う予定のない歯列不正、歯頸線が不揃いでエンブレジャーが不規則な広さで観察される歯列群、歯周治療の安定後に大きく歯肉退縮した歯などであって、むしろ生物学的幅径の歯周組織環境による技工依頼は少ないのが現状でしょう。しかし、私達歯科技工士が、多くの患者あるいは歯科医師から求められているのは、生物学的幅径の環境も含めた、術後トラブルの少ない機能と審美を維持できる歯周にやさしい修復物です。

今回は、生物学的幅径の状態を含め、それとは異なる症例にも対応するには、歯科技工士としてどのような知識と技術が必要か、様々な条件下でも「歯周にやさしい修復物を目指す」私の考えを述べ、皆様の臨床技工のお役に立ちたいと考えています。

遊亀 裕一 略歴

1977年：日本大学歯学部附属歯科技工専門学校卒

1988年：横浜市にて（有）山手デンタルアート開業

2006年：明倫短期大学臨床教授就任（現在に至る）

現在、日本歯科色彩学会評議員、日本歯科審美学会会員、日本顎咬合学会会員、日本臨床歯科補綴学会会員、京セラメディカルセミナー講師、GCセミナー講師、JDA正会員、Wクリック会員、

主な執筆

*ラボサイドへの情報伝達-いかに補綴のイメージを共有するか-（共著）歯界展望. 2003年10月

*補綴主導型インプラントとその技工（共著）QDT別冊YEAR BOOK. 2003年

*咬合調整の少ないクラウンの作り方. デンタルダイヤモンド. 2003年11. 12月

*デジタル画像により様変わりする歯科技工士への情報伝達（共著）. 日本歯科評論. 2004年5月

*前歯部歯冠修復における「レジンガム」応用テクニック. 日本歯科評論. 2005年9. 10月

*みんなでいっしょに歯周補綴（共著）歯界展望. 2008年4. 5. 6月

*FUNDAMENTALS of Esthetic Dental Technology審美歯科技工の原理原則（共著）歯科技工別冊. 2009年

*診療室・技工室から補綴臨床を考える（共著）2010年1月. 株式会社ジーシー

*キャストブルゴールドアバットメントの技工操作 2010年4月 Japan Medical Materials Corporation

*問われるインプラント、チーム連携で安全・安心—患者を中心に据えた質の高いチーム医療のあり方—を考える（共著）2012年08月 ザ・クインテッセンス

（有）山手デンタルアート

〒 231-0825 横浜市中区本牧間門49-7

Phone 045-623-0334

Fax 045-623-0334